

個別の教育支援計画

「個別の教育支援計画」

生徒一人一人の実態を踏まえ、乳幼児期から学校卒業後までを一貫して的確な教育的支援を行うと共に、福祉、医療、心理、労働等の関係機関との密接な連携、協力に基づいた支援を行うための計画です。

氏名	宮崎 一郎
----	-------

〈確認欄〉 個別の教育支援計画の内容について確認しました。

	1年生	2年生	3年生
	平成24年 ○月 △日	平成25年 ○月 △日	平成 年 月 日
保護者印	印	印	
学級担任印	印	印	
校長印	印	印	

氏名	みやざき いちろう 宮崎 一郎		性別	男	生年月日	平成〇〇年 〇月〇〇日
学校名 県立〇〇高等学校	学年	知・自 通常	記入者	記入日	保護者氏名	宮崎 二郎
	1年	通常	〇〇 〇〇	H24.〇.△	住所	宮崎市〇〇 〇丁目〇-〇
	2年	通常	〇〇 〇〇	H25.〇.△	連絡先	〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇 (自宅) 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 (携帯)
	3年				家族構成 (兄弟姉妹の 生年月)	父、母、本人、弟 (H〇〇.〇)
生徒の状況 (診断名、慢性的な疾病、視覚・ 聴覚等に関する特記事項)		広汎性発達障がい (〇〇病院 H22.〇)				
服薬	薬名 〇〇〇〇 (H 22.〇～)			発作	(H 22.〇～)	
取得している手帳		療育手帳 A B-1 B-2 (認定日) (更新日) 身体障害者手帳 種 級 (認定日) 精神障害者保健福祉手帳 (認定日)				
諸検査の 状況	検査名		実施日	検査者	結果	
	WISC-III		H21.〇.△	みやざき中 央支援学校	全検査は正常域 言語性は正常域下限～境界域、動作性は正 常域、下位検査にばらつきが多い	
	WISC-III		H22.〇.△	発達障害者 支援センタ ー	全検査 IQ : 85 言語性 IQ : 81 動作性 IQ : 95	
生育歴・療育歴 保育歴・教育歴		<p>小学校、中学校ともに通常の学級で学習をしてきた。それぞれ、学級担任等との教育相談を行ってきている。</p> <p>H21.〇 みやざき中央支援学校の教育相談を受け、心理検査を実施。</p> <p>H22.〇 〇〇病院を受診し、広汎性発達障がいの診断を受ける。</p> <p>H22.〇～ 発達障がい者支援センターでの相談を開始 (月1回程度)</p>				

	学習面	生活・行動面	対人関係面	その他・配慮事項
中学3年	○ 通常の学級で、全ての学習を行っている。授業中に寝てしまうことがあり、注意を促す必要があった。興味がある学習(社会、数学)では、積極的に発言する姿が見られる。書けないわけではないが、ノートをとることを嫌がるため、学習プリントの準備をするなど、本人が学習内容を記述しやすいよう各教科で工夫した。	○◇日常生活の動作は自立しているが、全体的に行動がゆっくりとしている。時間を気にして行動することが苦手であるため、言葉掛けによって気付かせるようにした。 ○ プリント類を整理し、自分で管理することが苦手である。また、宿題や教科書などの忘れ物が多い。生活ノートに準備物の記録をするよう全体に促す際に、個別の指示が必要である。	○ 仲の良い友達が数人いる。同じ部活動(△△部)の友人で、放課後や土曜日も、よく一緒に過ごしているようである。 ○◇他者への思いやりのない発言がある。また、人前で鼻をほじるなど、不快な気持ちにさせてしまう行動が見られる。	○ 強く非難されると興奮して逆上することがあった。しばらく時間をおくと落ち着き、指導にも素直に従うことができる。
1年生	○ 朝の課外に間に合わないことがある。 ○ 学習には参加することができている。授業中の居眠りがある。ノートは書いていないことがあるものの、個別に指示すれば取り組むことができた。 ○ 全ての教科で学年の平均点を下回っているが、30点以下の教科は見られない。	○ プリント類の整理が苦手で、紛失したり、提出期限を守れなかったりすることがしばしばある。 ○ 体育や移動教室時に、授業に遅れることがあった。 ◇ 自室の整理整頓や、脱いだものの片付けなどができず、家族から注意を受けることがしばしばある。	○ △△部に所属しており、同じ部活動の友人と過ごすことが多い。 ○クラスの中で、特に目立ったトラブルはない。	○ 夏休み明けに、2～3日登校を渋っていたが、その後は登校を継続することができている。
2年生	○ 朝の課外に間に合わないことがある。 ○ 学習中の居眠りが頻繁にあり、注意を受けることが多い。ノートについても、教師からの声掛けが必要である。 ○ テストの結果は、平均を下回っていることが多い。	○ プリント類の整理は、十分にはできていないが、課題の提出は、教師が言葉掛けをすれば応じることができる。 ○ 連絡事項を聞きもらしたり、メモをし忘れていたりすることが目立つ。 ◇ 言われれば自室の整理整頓をすることがあるが、本人の機嫌による。	○ 周囲の生徒から支えられていることが多い。 ◇ 携帯電話を介したやり取りで、相手を傷つける書き込みをしたことがあった。	○ 登校は、継続できている。教師からの指導を素直に聞き入れることができている。
3年生				

(学年目標 ○=学校、◇=家庭・地域)

氏名 宮崎 一郎

将来の生活についての願い (進路希望)	本人	<ul style="list-style-type: none"> プログラマーになりたい。(H24.4～) 大学に進学したい。(H24.4～) 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> 就職や一人暮らしなど、自立した生活を送って欲しい。(H24.4～) 大学や専門学校に進学して欲しい。(H24.4～) 	
中・長期目標 (卒業まで)	学習	<ul style="list-style-type: none"> 本人が希望する大学(学部・学科)に進学できる学力を身に付ける。(H24.4～) 	
	生活・行動	<ul style="list-style-type: none"> 役割や課せられている課題を、期限などに沿って遂行することができる。(H24.4～) 時間を守る。(H24.6～) 	
	対人	<ul style="list-style-type: none"> 自分の判断でよいか、今の状況がどうであるかを、他の人に相談することができる。(H24.6～) 	
学 年 目 標	1 年 生	学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各教科で、クラスの平均点を上回る。 ○ プリントなどの整理を自分で行うことができる。
		生活・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教室移動時に、時間を守る。 ◇ 定期的に、自室の整理整頓をすることができる。
		対人	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスや部活の友人・先輩と、トラブルなくやり取りすることができる。 ○ 担任や部活の顧問に、相談や自己申告をすることができる。
	2 年 生	学習	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業中の居眠りを減らす。
		生活・行動	<ul style="list-style-type: none"> ○◇生活場面で、時間や期限を守る。 ○◇やるべきことに、優先的に取り組むことができる。
		対人	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスや部活動の友人、先輩、後輩などと、トラブルなくやり取りをすることができる。 ○ トラブルになった時に、教師等にそのことを伝えることができる。
	3 年 生	学習	
		生活・行動	
		対人	

氏名 宮崎 一郎

現在の支援体制	関係機関名	担当者・連絡先	支援内容	引継事項
	県立みやざき中央支援学校 (H21.〇～)	〇〇コーディネーター 0000-00-0000	<ul style="list-style-type: none"> 指導や支援の方法についての助言を行う。 高校での支援会議に参加する。 	
	〇〇病院 (心療内科) (H22.〇～)	〇〇医師 0000-00-0000	<ul style="list-style-type: none"> 2ヵ月に1回の通院。服薬の処方をする。 	
	県中央発達障害者支援センター (H22.〇～)	〇〇相談員 〇〇心理士 0000-00-0000	<ul style="list-style-type: none"> 1ヵ月に1回通所。本人と面接し、スキル学習を行う。また、母親と面接し、家庭での支援についての助言を行う。 	

(様式 2)

記 入 例

個別の指導計画

「個別の指導計画」

長期にわたる支援の方針等を示している「個別の教育支援計画」を、指導のために具現化した計画です。学年目標や短期目標を設定し、それぞれの目標達成に向けて、指導・支援の手立て等を児童生徒一人一人の実情に応じて、具体的に計画していきます。

氏 名	宮 崎 一 郎
-----	---------

平成25年度

氏名	みやざき いちろう 宮崎 一郎	性別	男	作成日	平成25年 ○月 △日
学校名	県立○○高等学校	学年	2年	担任名	○○ ○○
学年目標	学習	○ 授業中の居眠りを減らす。			
	生活・行動	○ 学校や部活において、時間や期限を守る。 ○ やるべきことの優先順位を考えて、物事を処理することができる。			
	対人	○ クラスや部活動の友人、先輩、後輩などと、トラブルなくやり取りをすることができる。 ○ トラブルになった時に、教師等にそのことを伝えることができる。			
前期		短期目標	手立て・留意点	変容・評価	
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> 発問に答えることで、授業への参加意識を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担任は、授業内容の見通しを示し、具体的な行動の指示を行う。 適宜、本人に対する発問を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 発問に答えるやり取りが多くなることで、居眠りは減っているが、本人は自分への発問が多いことを嫌がっているようである。 	
	生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> 周囲からの言葉掛けによって、その場で配布物の整理を行うことができる。 指示があったことに、優先的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリント類を配布する時や授業が終わる時などに、ファイルに綴じることを具体的に指示する。 その場面の中で、やるべきことを具体的に指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ファイルの所在が不明な時があるものの、指示したタイミングで、プリント類を綴じることができる。後半では、指示がなくても自分で整理する姿も見られるようになった。 学習に関係することには、なかなか取り組まないが、清掃などの場面では、指示された通りに行動することが増えている。 	
対人関係面	<ul style="list-style-type: none"> 相手の主張を聞き入れ、自分の行動を変えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や部活動顧問は、本人との会話の機会を多くし、話を聞くよう努める。 周囲の生徒の考えや思いを具体的に説明する。 周囲の生徒からの情報が得られるように、本人の周囲の生徒にも関わる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や部活動顧問との関係は良好で、本人の行動について話し合うことができた。 どうしても納得できず、相手の意見を聞き入れない場面があった。 		

氏名 宮崎 一郎

		短期目標	手立て・留意点	変容・評価
後 期	学習面	<ul style="list-style-type: none"> 発問に答えることで、授業への参加意識を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科担任は、授業内容の見通しを示し、具体的な行動の指示を行う。 適宜、本人に対する発問を行う。 	
	生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> 配布物の整理を自分から、その場で行うことができる。 指示があったことに、優先的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な指示の範囲で、本人が行動を起こしているかどうかを見守り、必要に応じて声を掛ける。 必要に応じて、個別の指示や声掛けを行う。 	
	対人関係面	<ul style="list-style-type: none"> 相手の主張を聞き入れ、自分の行動を変えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任や部活動顧問は、本人との会話の機会を多くし、話を聞くよう努める。 周囲の生徒の考えや思いを具体的に説明する。 	
校内支援体制		<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行う校内委員会で、本生徒に関する状況を各教科担任から情報収集し、対応の共通理解を図る。 		
本 年 度 の ま と め	関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話を使った対人関係のトラブルについては、発達障害者支援センターにも連絡し、本センターでのスキル学習の一部に取り入れていただくことを相談した。 		
	学年目標に対する評価			
	次年度への引継事項及び課題			